

1992年 5月15日 通巻第781号
1968年12月12日第三種郵便物認可5、15、25日発行
発行所 人民新聞社
1部150円 購読料半年間3000円
本社 大阪市北区天満橋3-5-28 天満橋会館2階
☎(06)358-4376 FAX(06)358-7555
振替口座大阪5-88555
東京多摩支局 立川市柴崎町3-6-3 風林舎内 ☎(0425)22-5429

人民新聞

The JIMMIN-SHIMBUN
(The people's newspaper published every ten days)

The JIMMIN SHIMBUN
Tenmabashi-Kaikan, 2F
3-5-28 Tenmabashi
Kita-ku, Osaka, JAPAN
Tel. 06-358-4376

Subscription:
One year 10,000 Yen
(include air mail postage)

二一世紀に向かおう、人民革命勝利の時代をきりひらこう！

一九九二年五月三〇日 日本赤軍

〈資料〉



闘いは、日本人民とパレスチナ人民の国際連帯の基礎をつくりだしました。

第二に、連合赤軍問題の克服の方向など、日本の革命運動への身をもつての問題提起でした。連合赤軍のニュースを開きながら、無念の涙を流した戦士たちは、同志のかけがえのなさを噛みしめ、その誤りを乗り越えて行くためには、自分たちの生命を賭して闘い抜くしかない決意を固めた。この闘いによって、人民のために、自らを犠牲にして闘うことこそが連合赤軍の敗北を乗り越えるものであることを訴えたのである。

① 自己犠牲の実践で国際連帯をきりひらいたリッダ闘争

「国境を越えた闘いは、日本革命を保証し、日本革命は世界の人民戦争を押し進める。日本の友人たち、行動と犠牲の上に雄々しく燃えている革命す。私たちの闘いは確実です。」

の歴史を継承し、世界の友人と共に進め！ 隊伍を整えよ、敵は一つだ。我々は日本人民の誇りをもってパレスチナ人民と戦争に行く。葬列を繰り出すな。ただ祭りを、我々と世界革命の友人たちのために」という言葉を残して、闘い尽くしたリッダ闘争に反対するイスラエルの報復の犠牲になったガッサン・カナファール同志を始めとするパレスチナの同志たち、二〇年経ちました。同志たちに見守られ、支えられ、私たちは闘いを継続し発展させることができました。当時生まれたパレスチナの子供たちも、二〇歳の立派な革命戦士になって戦場を走り回っています。

反帝勢力の国際的な結合を強化し、前進させる

に前進しています。場所は二〇周年の志をひとつに引き離されていても、し、ともに前進しよう！

② 敗北によって私達の団結の質のとらえかえしが問われた

リッダ闘争が始まる二〇年の闘いは、自己犠牲と国際主義の精神を継承し、発展させるものとしてありました。この二〇年間、私たちが身を置いていた国際情勢も、大きく変わりました。七〇年代においては国際反帝勢力の前進と高揚の時代として、八〇年代は、帝国主義の反撃による困難な情勢をきりひらく時代としてあり、八〇年代末のソ連と東欧の社会主義諸国の崩壊は、

われ、領土を踏みしめられ、生まれ育った地から追い出されたパレスチナ人民のみならず、アラブ人民全体が、イスラエルの中心で、アジアの東の果てから来た日本人戦士が決死の闘いをやりぬいたことに喝采をおくりました。「リッダ闘争に続け！」が当時のパレスチナ戦士たちの合言葉でした。リッダ闘争の意義は、第一に、決死の自己犠牲

的闘争実践をもって、国際連帯をきりひらいたことにあります。ベトナム人民を先頭とする反帝国主義勢力の前進の中で、「第一、第三のベトナムを！」を合い言葉に帝国主義を追いつめる闘いが、第三世界を中心に進んでいました。私たちは「連帯は、ローマの市民と剣闘士の関係であってはならない」とのゲバラの言葉を実践することを通して、国際主義の地平を築き上げようとしてきました。それは、反帝国主義の勢力の国際的な結合を強化し、前進させるものでした。また、この

九〇年代の反帝勢力の闘いを問うています。こうした国際情勢の流れの中で、私たちは、国際主義の実践を通して、国際的な反帝勢力の統一と日本革命の前進を、共に担う闘いを進めてきました。七〇年代においては、リッダ闘争につづいて、七三年日航機ハイジャック闘争、七四年のシンガポール石油精製所攻撃、さらにハーグ同志尊厳闘争として、国際遊撃戦を

るに支えられた戦闘団としての「強さ」に依存して武装闘争を闘ってききました。私たちが直面した事態は、その団結の質のとらえ直しを要求するものでした。団結の質を規定している自分たちの革命と人民に対する態度を問ひ合い、その中で自分がどう闘うのか、自分がどう生きるのか、ということではかかっていることには気づきました。そこで、その実体を変えるための思想闘争を開始したのでした。

また、私たちは、思想闘争を通して自己批判の重要性を学びました。失敗や敗北をだれかの責任や外因のせいにしたらず、対立や分裂になり、それはまた、主体

的変革を疎外してきたことに気づきました。素朴であるが本質的な問題としてある自己批判の立場に立つときに、失敗や敗北はより団結を深め、闘いを発展させることができるということを知りました。

私たちは、この地平に立って闘いを継続しました。その最初の闘争は、クアラ Lumpur 同志尊厳闘争として結実し、私たちの同志だけではなく、連合赤軍、東アジア反日武装戦線、赤軍派の同志を含めて尊厳しました。これは、私たちの敗北にとどまらず、彼らの敗北と共に克服しようという呼びかけであり、私たちの自己批判でもありました。(二面つづく)

愛の労働
「マリアローザ・ダラ・コスタとフランカ・ダラ・コスタはイタリアの果敢なフェミニスト姉妹。姉は家事労働の、妹は愛という名の性の労働の秘密を赤裸々にあきびだした。性と暴力の関係、結婚の中の強姦、売春とレイプがどうして男に対する闘いになるのか...が明解に解かれる。」—推薦 上野千鶴子
伊田久美子訳 1880円

インパクト出版会
東京都文京区本郷2-30-14(発売・イザラ書房)
☎03-3818-7576 FAX03-3818-8676

地球環境の
ポリテイカル・エコノミー
6月号(特集)地球環境の
★8800円
本土資本のリゾート開発は、沖繩にひとつも利益をもたらさないと知花昌一何がとびだすか地球サミット・宇井純 経済成長かCO2削減か河宮信郎 CO2半減社会への提言山田国廣 環境自治体が地域を変える岩田真 南の民衆と平等に生きる途は白川真澄 土着宗教が反開発の壁に池田清彦「緑」で売り出す天皇パフォーマンス山本英夫 リゾート・ゴルフ場開発反対運動奮闘記久慈力

Forum
月刊フォーラム
〒104 東京都中央区東中野1-41-52 学芸会館
Tel.03-3366-4650 Fax.03-3271-3557 編集・東京7-540816

人民革命勝利の こう!

20周年にあたって

1992年5月30日 日本赤軍

この闘争の勝利による新たな同志達と共通の思想的立場から



この闘争の勝利による新たな同志達と共通の思想的立場から

原発事故の起きる日
山本定明・淡川典子著 2000円+税
もし原発事故が起きたらどうするのか。はたして市民は逃げられるか。アメリカ・カナダ・日本の避難計画を比べながら論考を進める。

松からの警告 2000円+税
松枯れ農薬空散反対広島県民会議編
松が大量に枯れ出してから二〇年。被害はさらに広がっている。原因について行政は虫、住民は大気汚染だという。その論争を総括。

ゆりかごが墜ちる時
L.ティンバーレイク他著 2800円+税
破壊されつづける環境の一番の犠牲者は子供たちである。汚染や飢餓が奪う幼い生命の表情を世界中を歩いて取材したドキュメント。

北京の二週間
ハン・スーイン著 3000円+税
国際舞台で活躍中の中国人作家による八九年までに発表した中国を中心とした第三世界に関する報告。未来を展望した視座を提供。

思想の科学
マルクス主義のバランスシート I・II
1981年7月号
マルクス主義のバランスシート 塚本由典・藤田省三・見田宗介 著 粉川啓夫・上野千鶴子 校

1991年9月号
状況からの再出発 久野 収
五十年の闘争 梅村志夫
未来に向けて 中野哲也
武谷三男 乾孝 和田洋一
南博 鶴見和子 鈴木均他

吉川勇一
市民運動の宿題
ベトナムから反戦へ
ふつうの市民によるベトナム反戦運動「ベトナム連」が、市民連合として運動を再開。「事務局長」として運動を支え、市民運動における実務と組織のあり方を一貫して追求してきた著者が、いま「ベトナム」を問い直す。

中山千夏氏推薦 / 定価2266円(税込)

21世紀に向かって 時代をきりひら

— 5・30リッダ闘争

(二面よりつづく)

を教えています。第四に、ゲリラ戦の観点で

の力を形成し、その闘いにおいて敵を打ち倒すこととであり、また、つねに敵に対して主導性をもって闘うことです。第五に、日本革命を国際的に孤立させないように闘うには、国際主義の観点で

米帝の援助を受け、日本警察が国際的展開を開始

す。これは、軍事的な意味だけではなく、闘い方としても、敵の力の弱いところから始めて、自ら

八七年、任務の途上にあった同志が逮捕された。それを契機とする日本警察権力の再編が行われ、日本警察は、アメリカ帝国主義の後押しをうけつつ、国際的展開を

開始しました。これは、わたしたちの闘いの前進に脅威を感じた日本支配階級の本格的な攻勢を意味していました。

「新思考」外交による帝国主義との協調路線は、反帝国主義勢力、諸国を困難な状況においてきま

主義の一元的な支配としての「新世界秩序」を示すものとしてあり、第三世界、とりわけ、パレスチナ革命を含む人民の闘いに困難をもたらしました。

結合がなかったからであり、そのことを、私たちが自己批判として踏まえなければなりません。

「新思考」外交による帝国主義との協調路線は、反帝国主義勢力、諸国を困難な状況においてきま

は、CIAによる反革命勢力の育成と支援による各国への転覆活動の拡大と一体のものとして進め

無謬の党観が指導の観点となったことによる誤り

私たちは、東欧、ソ連の崩壊のプロセスを通じて、新たな教訓を得ることができました。第一に、ソ連、東欧の存在が、その中身が社会主義として正しくなかったとしても、反帝国主義戦線での大きな役割をもち、それに反対する勢力をも含めて、どれだけ支えられていたかということが、改めて明確になったことです。

第三には、中央集権的計画経済の問題です。社会主義諸国の人民にとって、経済的な発展の立ち遅れと生活の困難が資本主義への幻想を育てたこと

中央集権的計画経済がイコールのものではありません。この点も、なぜそのようになったかを、根拠から考えてみる必要があります。

人民が主権者となる経済を確立することであり、人民の意志から離れた強大な中央集権的な経済は、それを阻害するものであるということです。

5 ソ連・東欧の崩壊のプロセスを通じた新たな教訓

国際情勢全体においては、帝国主義によるゴルバチョフの政策の利用によって、東欧の崩壊、さらには、ソ連の崩壊とゴルバチョフ自身の失脚を導きました。さらに、湾

原因があることを、主体的にとらえることを要求しては、無謬の党観の問題です。この観点からとら

第三には、中央集権的計画経済の問題です。社会主義諸国の人民にとって、経済的な発展の立ち遅れと生活の困難が資本主義への幻想を育てたこと

中央集権的計画経済がイコールのものではありません。この点も、なぜそのようになったかを、根拠から考えてみる必要があります。

人民が主権者となる経済を確立することであり、人民の意志から離れた強大な中央集権的な経済は、それを阻害するものであるということです。

岸戦争は、アメリカ帝国主義の本質を暴露した。また、計画経済は、資本主義の無政府的経済の発展による人民の生活を不安定、不確かな

第三には、中央集権的計画経済の問題です。社会主義諸国の人民にとって、経済的な発展の立ち遅れと生活の困難が資本主義への幻想を育てたこと

中央集権的計画経済がイコールのものではありません。この点も、なぜそのようになったかを、根拠から考えてみる必要があります。

人民が主権者となる経済を確立することであり、人民の意志から離れた強大な中央集権的な経済は、それを阻害するものであるということです。

人民が主権者となる経済を確立することであり、人民の意志から離れた強大な中央集権的な経済は、それを阻害するものであるということです。



抑圧的な方法で 民族の統合が強制された

第四には、民族問題の未解決の問題です。自発的な諸民族の融合をもたらすものであったはずのソビエト連邦が、諸民族を抑圧するものとなっていったことが、東欧、ソ連の崩壊後の民族対立の拡大を生みだしています。

(四面上りつづく)

よ・ん・で・み・ま・せ・ん・か!

1週間のニュースを要約し、短いコメントや解説をつけて

News Letter

現代をつかむ人のためのニュースファイル

毎週金曜発行、A4版、8-12ページ
購読料=月2,000円(送料共)
申込み=人民新聞社・大阪市北区天満橋3-5-28天満橋会館2F
☎06-358-4376 郵便振替 大阪2-109084 渡辺政治経済研究所

小集会/会議に最適 (20名まで)

時間制限なし (宿泊はできません)

1人1時間100円の低料金

(ただし7人以下の場合は7人分、3時間以下の場合は3時間分の料金とします)

天満橋会館 会議室

▶お申し込み/お問い合わせは◀

☎06-358-4376 人民新聞社まで

(国鉄大阪環状線天満駅より徒歩3分)

(三面よりつづく)

認と自発的な民族融合へ導くという原則とは反対に、抑圧的な方法で統合が強制された結果としてあります。

この根本にも無謬の党観が存在します。党が正しいことを要求することが第一とされてしまい、「どのよう正しいことでも、抑圧民族の側から押しつけられるものは、被抑圧民族にとって抑圧でしかない」という真理が忘れられてしまし

た。抑圧民族と被抑圧民族の分離と被抑圧民族の自決によって、対等の関係をつくり、そのなかでそれぞれの民族の内部か

⑥ 合言葉は「難局を勝利の土台へ」-20年間の闘いの確信です

日本の人民、同志、友人のみならず、リッダ闘争二〇周年に際して、共に二二世紀に向かって人民革命勝利の時代をきりひ

民主主義の徹底として

住民自治を基礎に

以上の教訓から、私たちは、社会主義建設において、党が権力を握ることとを自己目的にせず、人民自身の権力を下から支える役割を果たさなければならぬこと、より人民自身が国家と社会の主権者となるためには、中央集権的な国家ではな

らいていくことを呼びかけます。第一に、最後の党を共につくり、無謬の党観に立脚するのではなく、人民原理に立脚し、党の役割をはたしめく党を、共につくりあげよう。党が分裂や対立の根拠となるのではなく、人民の生きるための闘いを支援し、その勝利のために、自らをたえず革命し、その役割をはたす党をつくりあげよう。

現在の国内、国際情勢の中でますます党こそが問われています。第二に、日本の人民革命を勝利させる闘いの統一をつくりあげよう。アメリカ帝国主義と日本独占資本の支配に反対するすべての人々は、力をあわせて、共に闘おう。現在の情勢は、社会党まで含めて支配階級による再編の中で取り込まれ、共産党は、人民の闘いの統一よりも分裂をつ

と包圍が、一時的な連邦前提とした同質化の進行の中でかち取られなければならないこと。これは、私たちが日本の新しい社会を考えていく上での重要な教訓です。

とであり、また、計画的な経済は、自主的な経済単位の調整と、その統合的な発展の方向を導く以上のもではないことをとらえ返しました。第三には、民族問題は、民族自決権の承認と抑圧民族の自己犠牲のなかで、対等、平等の立場から社会、経済的な同質化を相互支援する関係の中で解決されなければならないこととらえ返しました。さらに、その根本は、各国の指導党の対等、平等を

り、対立したりする理由は無数にあります。しかし、現在の社会を改革するために闘いをひとつにすることが重要です。第三に、陣地戦を闘い、民主主義を表現しよう。地域での人民の闘いが

さまたげに発展していると思えます。地域のなかでの住民自治と共生の実践の拡大を通して、人民の陣地をつくりあげよう。あらゆるところで自治と共生の実践は、新たな社会を準備します。その闘いを多くの地域に

拡大することこそ、人民の陣地の拡大となり、人民が主体となり、また、共に生きるためにどうすればよいかを考え、行動し、総括するなかで、それを発展させることができます。

人民革命の最後の勝利まで！ 共に！

第四に、帝国主義と闘い、国際主義を實踐しよう。現在の国際情勢のなかで、日本の動向が大きな鍵を握っています。ア

るように、人々は資本主義によって満たされていく訳ではありません。そうした新たな社会をもとめる人民の息吹こそが革命の根本的な力であり、私たちの確信でもあり、私たちがの闘いも、情勢をきりひらくなかで、こうした新しい息吹との結びつきを強めることができるでしょう。それこそが二二世紀をきりひらく闘いです。

川島豪・塩見孝也 対談
70年代の学生運動・新左翼運動をリードした元京浜安保共闘議長・故川島豪(旧藤九日遺志)と元共産同赤軍派議長・塩見孝也が激論、愛論、憤論、連合赤軍事件などの革命的左翼運動の総括、朝鮮民主主義人民共和国の現状等をふまえて、現代資本主義と社会主義の今後を展望する。川島豪の遺稿となる。46判2060円

封建社会主義と現代
塩見孝也獄中論文集
元共産同赤軍派議長・川島豪の論文集。現代社会主義国家論、西田幾太郎論、女性解放運動論など8論文(解題)高沢晴可2060円

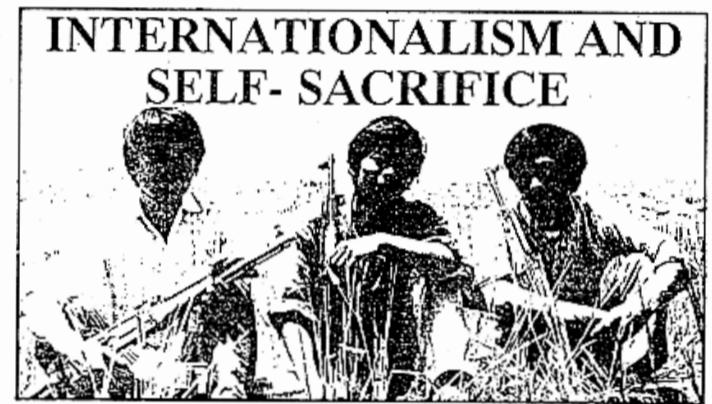
赤軍ドキュメント
査証委員会議録 一九六九年に結成されて以来、共産同赤軍派が展開した死闘の全歴史過程を再現する。戦闘のクロニクルは、七年間わたる闘いの雄叫びを伝え、連合赤軍の経過、十年後の連合赤軍を描写する。284頁 高沢晴可解説 2060円

統率戦と雨清「白」批判書
雪の山岳ベースに失われた革命の真実を、死の直前まで獄中で書きつけた、連合赤軍の最高指導者・雨清の日記、全文六〇〇枚。控訴審を期して初めて公開される「山岳ベース」での事実の再現/我々の誤り/連合赤軍への道の三部で構成される。 高沢晴可解説 2060円

戦後革命運動事典
同盟委員会編 45年8月15日を起点とし80年代の今日に及ぶ革命運動―政治社会労働農民学生市民の各運動をとりあげ、その思想・組織・事件・人物を四五六項目で解説する。基礎文献資料として、人民に語り、他の編者・著者と関係年表、社説、新左翼の系譜を付す。46判410頁3200円

全共闘グラフィティ
高沢晴可編 67年秋から70年にかけて、半に噴出し造反有理、大学解体をスローガンに、ついに自己否定にまで過激に行きついた全共闘運動を凡そと捉えた写真集。増補版/ 2060円

新泉社
東京都文京区本郷2-15-10
電話03-3812-1662



り、対立したりする理由は無数にあります。しかし、現在の社会を改革するために闘いをひとつにすることが重要です。第三に、陣地戦を闘い、民主主義を表現しよう。地域での人民の闘いが

さまたげに発展していると思えます。地域のなかでの住民自治と共生の実践の拡大を通して、人民の陣地をつくりあげよう。あらゆるところで自治と共生の実践は、新たな社会を準備します。その闘いを多くの地域に

拡大することこそ、人民の陣地の拡大となり、人民が主体となり、また、共に生きるためにどうすればよいかを考え、行動し、総括するなかで、それを発展させることができます。

第四に、帝国主義と闘い、国際主義を實踐しよう。現在の国際情勢のなかで、日本の動向が大きな鍵を握っています。ア

るように、人々は資本主義によって満たされていく訳ではありません。そうした新たな社会をもとめる人民の息吹こそが革命の根本的な力であり、私たちの確信でもあり、私たちがの闘いも、情勢をきりひらくなかで、こうした新しい息吹との結びつきを強めることができるでしょう。それこそが二二世紀をきりひらく闘いです。

川島豪・塩見孝也 対談
70年代の学生運動・新左翼運動をリードした元京浜安保共闘議長・故川島豪(旧藤九日遺志)と元共産同赤軍派議長・塩見孝也が激論、愛論、憤論、連合赤軍事件などの革命的左翼運動の総括、朝鮮民主主義人民共和国の現状等をふまえて、現代資本主義と社会主義の今後を展望する。川島豪の遺稿となる。46判2060円

封建社会主義と現代
塩見孝也獄中論文集
元共産同赤軍派議長・川島豪の論文集。現代社会主義国家論、西田幾太郎論、女性解放運動論など8論文(解題)高沢晴可2060円

赤軍ドキュメント
査証委員会議録 一九六九年に結成されて以来、共産同赤軍派が展開した死闘の全歴史過程を再現する。戦闘のクロニクルは、七年間わたる闘いの雄叫びを伝え、連合赤軍の経過、十年後の連合赤軍を描写する。284頁 高沢晴可解説 2060円

統率戦と雨清「白」批判書
雪の山岳ベースに失われた革命の真実を、死の直前まで獄中で書きつけた、連合赤軍の最高指導者・雨清の日記、全文六〇〇枚。控訴審を期して初めて公開される「山岳ベース」での事実の再現/我々の誤り/連合赤軍への道の三部で構成される。 高沢晴可解説 2060円

戦後革命運動事典
同盟委員会編 45年8月15日を起点とし80年代の今日に及ぶ革命運動―政治社会労働農民学生市民の各運動をとりあげ、その思想・組織・事件・人物を四五六項目で解説する。基礎文献資料として、人民に語り、他の編者・著者と関係年表、社説、新左翼の系譜を付す。46判410頁3200円

全共闘グラフィティ
高沢晴可編 67年秋から70年にかけて、半に噴出し造反有理、大学解体をスローガンに、ついに自己否定にまで過激に行きついた全共闘運動を凡そと捉えた写真集。増補版/ 2060円

新泉社
東京都文京区本郷2-15-10
電話03-3812-1662